


平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【茨城県】

1 実践テーマ	【IV, V】
2 実施対象者	茨城県立三和高等学校 全生徒（1学年140人 2学年130人 3学年136人） 教員（25人） 計431人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>1 教科名（ ）</p> <p>② 行事名（パラリンピック教育講演会）</p> <p>3 その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>1 イベント名（ ）</p> <p>2 その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピック教育を実施することにより、パラリンピック・ムーブメントの普及・推進を図るとともに、スポーツ機運の醸成を図り、生徒が生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
5 取組内容	<p>講演会での内容理解がより促されるよう、全生徒を対象に事前指導を行った。具体的には、高桑さんの経歴の紹介を、パラリンピックについての基本的な知識にも触れつつ写真や動画を用いて行った。</p> <p>講演会当日は、体育館で全校生徒を対象に、高桑さん自身が用意してくださったパワーポイントの資料に基づきながら実施して頂いた。高桑さんは、自身の講演の中で、装着していた義足を外して、競技用の義足に付け替える様子を実際に見せたり、競技用の義足を装着して、実際に生徒の前で走って見せたりしてくださった。また、講義の内容としては、パラリンピックのクラス分けの説明や、これまで自分が経験してきた病気とそれを克服する過程に加え、その中で学んだことを生徒に還元してくださった。最も印象的だったのは、「人生は選択と挑戦であり、自分の選んだ道をどんどん突き進んで、後悔しない人生を送ってほしい。」という言葉であった。</p> <p>講演会后、講演会の内容を振り返り、学んだことを整理し今後活かすことを目的として、全校生徒に感想文を書かせた。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

6 主な成果

事後学習として、講演会後に生徒に感想文を書かせた。実際に脚の切断部分を見たり、義足をつけて走っている高桑さんを見ることで大きな衝撃を受けた生徒が多かったように思う。加えて、高桑さんの力強い口調は、高桑さん自身のこれまで経てきたことで培われた自信の大きさを示しており、それに触れることで生徒は憧れの気持ちを持ったり、元気づけられたり、先入観について考えさせられる様子が垣間見られ、生徒にとっては感じる事、考える事の多かった有意義な講演会であったように思われる。同時に、「パラリンピックに対する興味が湧いた」、「高桑さんを応援したい」等のコメントも多くあり、生徒のパラリンピックの認知度が高まり、観るスポーツとして自身のスポーツライフに組み込みたいという感想が多かった。生徒が書いた感想文の一部を以下に記す。

- 私も軽度の知的障がいを患っている。講演会を聞いて、「自分一人だけが苦しく辛いわけではなく、家族や親族だって苦しくて辛いんだよ」という言葉が印象的だった。
- 私は最初パラリンピアンのことをあまり知りませんでした。昨日、高桑選手が学校に来たときには、高桑選手はどこが悪いのかなと思っていました。高桑選手が左脚のズボンをまくって切断した脚を見せてくれたとき嘩然としました。高桑選手は13歳の時に病気ということがわかったのですが、それが骨肉腫ということが検査してもなかなかわからず、見つかった時にはすぐにお医者さんに脚を切断するか、使えない脚をそのまま残しておくかの選択をなささいと言われ、悩む時間すらほとんどなく脚を切断したという話を聞いて、私が13歳でそのような立場だったら絶対に自分では決められなかったなと思いました。パラリンピックの高桑選手が出る種目もT44ということがわかったので、応援しようと思いました。講演を聞いて高桑選手のファンになりました。
- 私は高桑選手をテレビで少し見たことがあります。高桑選手は小学校6年生の時に骨肉腫を患い、何度か手術を受けた後に、中学生の時に左脚を切断するという道を選ばれたそうです。それを聞いたとき、とてもすごくて私には到底できないことだなと思いましたし、左脚を切断後も好きなスポーツを義足をつけながらしている高桑さんはすごいなと思いました。最後に、高桑選手がおっしゃっていた、「あの道を進んだら正解、この道を進んだら正解というのはない。自分の選んだ道をどんどん突き進んで、後悔しない人生を送ってほしい。」という言葉聞いて、私も人生は一度きりしかないし、後悔しない人生を送りたいし、高桑選手のように強くてカッコいい人になりたいなと思いました。
- 私が今回の講演会で学んだことは、幸せは人それぞれだということです。正直私は、最初、パラリンピックで活躍しているとはいえ、高桑さんのことをかわいそうだと思っていました。なりたくて義足なわけでもないだろうし、最近の義足が良くなっているとは言え、健常者よりは動きが制限されるのだろうと、勝手にかわいそうな人だと思っていました。事前指導で片足が義足だということは知っていましたが、健常者のように見える高桑さんを見てびっくりしました。講演が始まってすぐに高桑さんが義足を外して見せてくれたことで、義足をつけているように見えなかったことへの驚きを感じるとともに、義足を本当につけているのだと改めて確認ができました。辛い過去があって、とても苦労して、楽しいことや幸せに思うことはきっとひとにぎり、そんな風に生きてきたのかなと私は思っています。

	<p>した。しかし、話をしている高桑さんはずっと笑顔で、辛かったこと、苦しかったことよりも今楽しいこと、やりがいを感じていることをたくさん話してくださったり、パラリンピックのことを教えてくださったりと、とても勉強になったし、楽しそうに話す高桑さんに元気づけられました。私も、自分のやることで辛いことや苦しいことを探すのではなく、楽しいことややりがいを見つけていつか高桑さんのように笑顔で話せたらいいなと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講演会を聞くことができたことは私にとってとても貴重な経験になりました。高桑さんはとても明るくポジティブな人で、話を聞いていて私も元気になりました。高桑さんが陸上を本当に好きなのが伝わってきて、パラリンピックのことも少し知ることができました。また、高桑さんが見せてくれた義足が百万円以上するということを知って驚きました。私が話を聞いて思ったことは、「義足なのに走れてすごい」ではなく、「義足でもそうでなくても高桑さんがしてきた努力でここまで走ることができてすごいな」ということでした。私は、運動は得意ではないけれど、観ることは好きなので、高桑さんの活躍を見てみたいと思いました。数々の厳しいトレーニングを積んできた高桑さんを見習って、これから生活していこうと思います。 ● 高桑さんは、「人生は選択と挑戦」とおっしゃっていました。私もそうだと思います。私は中学で吹奏楽部に所属していました。それも選択と挑戦でした。たくさんある部活動から吹奏楽部を選び、楽器も吹けなくて、楽譜も読めない中での挑戦でした。それでも高校3年まで続け、たくさんのことを学ぶことができました。人生の中で選択と挑戦を行うことは、新しい自分を見つけられるチャンスだと私は思います。 ● 事前指導で話は聞いていたけれど、実際に義足をつけているところを見るのは衝撃が強かったです。話を聞き、自分に自信をもって強く生きる方だなと思いました。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	各学年において事前指導を行い、講演会における内容理解を促進させた。また、講演会後に感想文を書かせ、振り返りの機会を設けることで、講演会で学んだことをまとめ、自分の今後の人生にどう活かすことができるかを考えさせる良い機会をなした。
8 主な課題等	講演会の内容と絡めて、様々な授業（体育など）の中で積極的に取り扱いをするよう促すことで、理解の深化を図らせることができればより良かった。
9 来年度以降の実施予定	来年度以降も機会があれば講演会の実施を検討したい。